KPU NEWS
社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY
No. 223 Oct. 2025

「研究の京薬」本学のブランド再構築に向けて

―卒業生へ向けたメッセージ―

理事長 木曽 誠一

今年で創立141周年となる京都薬科大学には多くの卒業生がおり、様々な分野で活躍されています。脈々と受け継がれてきた歴史と伝統、そして1学年360名のスケールメリットのおかげで、京都薬科大学は私学薬学の西日本の雄としてその地位を築き上げると共に「研究の京薬」のブランドが築かれてきました。

Science、Art、Humanityのバランスの取れたPharmacist Scientistを育てる。このユニークな教育方針は「研究の京薬」を支えるキーワードであると共に、我々の強みの源泉です。実際に分野配属され、研究に取り組んで行くと、課題形成力や企画立案力、そして課題解決力、或いは、コミュニケーション力や忍耐力など様々な能力を求められ、苦しみながらも、それらが磨かれていきます。本学の卒業生が様々な業界で活躍されているのは、それを体現してこられた結果であると信じています。

しかしながら、我々のブランドも少子化や薬学部乱立の影響から安泰ではありません。そのため、理事長に就任して以来、広く学内の意見を集約し、課題抽出すると共にその解決に向けて取り組んできました。即ち、S/T比改善に向けての教員の積極的な補充、透明性や公正性を増すための業績評価制度の改定、ベースアップの実施などの改革を進めると共に、新校舎の建設着工など学びの環境の整備も推進し、ハード、ソフトの両面で基盤強化を図ってきました。

まだまだ改革していかなければならないことがありますが、これからは、言わば、守りを主体としたステージから攻めを主体としたステージに移行していきたいと思っています。即ち、教育や研究の更なる充実や活性化、地域あるいは企業や他大学との連携など学外協力体制やネットワークの拡充を図っていきたいと考えています。そして、情報発信を強化すると共に京薬ブランドの浸透、京薬のプレゼンスの拡大を図っていきたいと考えています。

そこで鍵となるのが卒業生の方々との連携です。大学のブランドは卒業生とともに築き上げられていくものであり、卒業生の方々の活躍あるいはサポートなくして、そのブランドは輝きを得ることはできません。

CONTENTS

■ ご挨拶
卒業生へ向けたメッセージ　理事長 木曽 誠一 …… 1
昇任のご挨拶 …… 2
新任のご挨拶 …… 2

■ イベント
2025年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催…… 5
理科実験講座
「身近な夏の不思議体験 2025 イン山科」…… 9

■ 特集
愛学躬行歴史資料室について…… 4

■ お知らせ
京薬会だより…… 3
Library News …… 8
生涯教育センターからのお知らせ…… 14
人事異動…… 18

■ コラム
私の薦める、私の一冊…… 13
十人十色「届け！心のハーモニー」…… 16
学生相談室だより…… 17

■ 報告
新カリキュラム　早期ラボ体験について…… 6
早期体験学習「プロダクト作成・意見交換会」について…… 7
2025年度京都薬科大学給付型奨学金表彰式を執り行いました…… 8
第110回薬剤師国家試験の結果について…… 10
2026年度大学院の入学選考結果…… 12
受賞・掲載…… 18
京都薬科大学奨学寄附金芳名録…… 20

これまでおよそ25,000人もの卒業生が本学を巣立って行かれ、多くの方々が今も現役で企業、病院、薬局、ドラッグストア、行政など多彩な分野で活躍されています。そこで培われた知識、ノウハウ、ネットワークは正に宝であり、それを大学の教育や経営に生かすことが出来れば、大学にとって大きな力となり、ブランド強化に繋がります。知識、ノウハウに関しては、現場からのリアルな声は教科書の行間を埋める学びとなるでしょうし、経験から生まれた知恵は課題解決のヒントになることが期待されます。また、ネットワークに関しては、京薬会と連携し、在学生、卒業生の垣根を越えたネットワークを強化・拡大していきたいと考えています。その多くの仲間が集う場が学びや相談の場となり、また、癒やしや楽しみの場となることで、同窓の仲間の成長や力の源泉となれば、大学や京薬会の活性化に繋がっていくものと期待しています。

そして、活気あふれる同窓の仲間と共に京都薬科大学のブランド再構築を進め、これからは全国私学薬学のトップの地位を確立していきたいと思っています。

今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

■京都薬科大学　事務局からのお願い

卒業生の皆様とのネットワークを構築するために、卒業生個人情報登録及び使用同意の確認を進めております。下記URL又は右側の2次元コードから登録をお願いいたします。

URL：https://forms.office.com/r/gFg60y8uCe

ぜひご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶

病態薬科学系

臨床腫瘍学分野

教授　中田（なかた）　晋（すすむ）

2025年7月1日付で臨床腫瘍学分野教授に就任いたしました。小生は1998年に京都府立医科大学を卒業し、京都第一赤十字病院消化器内科で臨床経験を積みました。2002年から京府医大大学院に進学しトラメチニブを創出された酒井敏行先生からがん研究の手ほどきを受け博士号を取得、2007年から2年半の間アレキサンダー フォン フンボルト財団給付奨学生および客員研究員としてハイデルベルクにあるドイツ癌研究センターに留学しました。2010年から横浜市大医学部、2011年から愛知県がんセンター研究所、2015年からは当分野准教授として勤務させていただいておりました。

今後、我が国有数の長い歴史を誇る本学でがん研究と教育を通してこれからの時代に活躍する薬学専門家の育成に貢献したいと考えております。微力ながら精励して参る所存ですので、諸先生ならびに同窓生の皆様の御指導御鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

新任のご挨拶

創薬科学系

薬化学分野

助教　喜屋武（きやん）　龍二（りゅうじ）

2025年7月1日付で、薬化学分野の助教に着任いたしました。私は2015年に静岡大学工学部を卒業後、同大学大学院総合科学技術研究科にて修士課程を、同大学創造科学技術大学院にて博士課程を修了し、2021年に博士（工学）の学位を取得しました。その後、2021年4月より福山大学薬学部助教として、約4年間にわたり有機化学分野の教育・研究に携わってきました。学生時代から一貫して有機化学を基盤とした高性能触媒の創製や触媒反応の開発研究に従事してきました。本学では、新しい視点や発想を取り入れ、「見た瞬間に面白い」と思わせる研究を展開したいと考えております。

このたび、縁あって京都薬科大学の一員となれましたことを大変光栄に思っております。講義および研究を通じて、本学が掲げる幅広い分野で活躍可能なファーマシスト・サイエンティストの輩出に貢献できるよう尽力する所存です。皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

京 薬 会 だ よ り

1. 令和7年度京薬会定時代議員総会開催

5月24日(土)躬行館T31講義室にて、来賓としての木曽理事長、赤路学長をはじめ代議員等総勢162名参加により代議員総会をハイブリッド形式で開催しました。昨年度から「京薬会は変わります」を旗印に掲げ、時代の潮流に沿った同窓会活動への転換を目指しています。新しくスタートした京薬会リンク事業の活動報告を皮切りに、平松会長からは「卒業生及び学生会員ファースト」で大学と連携した今後の京薬会活動の展望、木曽理事長からの熱いメッセージ、そして「京薬会ビジョン策定」など今年度の事業計画等方針について全会一致で承認されました。

また、大学の健全な発展へのさらなる貢献のために「改正大学寄附行為」の施行に伴う卒業生からの評議員選出に係る本会規程および京薬会会則の一部を改正しました。京薬会ビジョンの推進については、今後活動報告とともに紹介して参ります。

2. 卒業生講演会「災害時・新興感染症の発生時における薬剤師の役割・価値について～新型コロナウイルス感染症の対応、ダイヤモンド・プリンセス号の乗船を経て～」の実施

7月13日(日)14時～京薬会リンク事業の一環として、卒業生及び生涯教育センター登録会員対象にWebinar配信による教育講演会を開催しました。本学卒業生で演者の大阪府 健康医療部 生活衛生室薬務課 薬務企画グループ　濵﨑紀行氏（2010年卒）は、日本初となる新興感染症COVID-19集団感染当時に厚生労働省に出向されており、ダイヤモンド・プリンセス号に乗船して対応にあたられました。この貴重な体験を踏まえ災害・新興感染症発生時の薬剤師の役割と危機管理対応について、ご講演くださいました。映画「フロントライン」の公開もあり、約170名が聴講されて、薬剤師の倫理観、使命感についても再認識したと大きな反響がありました。

3. 歴史資料室だより

★企画展「薬用植物園（薬草園）開園100周年」の開催予定★

今年は1925（大正14）年6月13日に山科町御陵（現在の京都市山科区御陵）の借地1反歩（約990㎡）に京都薬学専門学校の薬草園が開園されてから100周年にあたります。それまでは、他の薬草園を利用させてもらいましたが、自前の薬草園をもつことで、教育や研究の条件が整え始められたのです。また、薬草園が先に山科の地に開かれることで、その後に本校もまた山科へ移転する大きな要因の一つになりました。

『京薬会誌』第45･46号（1966年6月）掲載の嶋田玄弥（はるや）「薬草園の記」によれば、現在の本学本校地の北の方、JR線のすぐ北側を並行して走る（山科駅行の場合）京阪京津線が南へ急カーブする地点の北側にありました。

1932（昭和7）年に本学校地も山科に移転してきます。当初は校地の西側にあった薬草園ですが、その後、本学の西から南へと国道（現在の新三条通）が通ることになって、薬草園の南側が削られるため、校地の東側にあらためて造られることになりました。そして、1968年に現在の伏見区日野に移転します。校地内の跡地には旧中央講堂兼体育館が1972年に新築され、さらに建て直しのうえ、現在の創立130周年記念館（中央講堂兼体育館）が建っています。

1949年に京都薬学専門学校が京都薬科大学に昇格するにあたり、薬草園は薬用植物園と改名され、さらに政府の「薬用植物園設置基準」（1963年）に合わせるために日野への移転が必要となりました。

まだ予定段階ですが、本年10月を中心に、上記の経緯を写真や図などで示す展示を考えています。場所や日程が決まり次第、京薬会のホームページでお知らせします。

★伊吹山植物園の借用契約書など★

薬草園開園の年は、同時に、滋賀県坂田郡教育会が経営していた伊吹山の植物園を実習のため使用することになり、使用契約が結ばれた年でもありました。これらについても、上記の展示であらため紹介したいと思います。

★『愛学躬行歴史資料室レター』No.6を発刊★

7月31日付で『愛学躬行歴史資料室レター』No.6を「玄弥少年から嶋田先生へ（上）−京薬会第3代会長、嶋田弥一郎医師の子、蛇の目ミシン嶋田卓弥社長の兄−」として刊行しました。本号は、先述のとおり今年が薬用植物園（薬草園）開園100周年ですので、当初の薬草園に関わった人物の一人として嶋田玄弥先生をとりあげますが、まずはその幼年時代を中心に紹介しました。

★企画・広報課の職員と学生編集委員が愛学躬行歴史資料室を取材★

7月31日（木）の午後に、上記の方々2名ずつ、合わせて4名が愛学躬行歴史資料室を取材に来ましたので、室長が解説などを担当して対応しました。取材の成果は、本号P.4～5をご覧ください。

（文責：愛学躬行歴史資料室室長　鈴木栄樹）

愛学躬行歴史資料室について

こんにちは、KPU$_{NEWS}$学生編集委員です。
皆さんは、本学に歴史資料室があるのをご存じですか？今回は、京都薬科大学の歴史をたどる愛学躬行歴史資料室を取材してきましたのでご紹介します。

KPU$_{NEWS}$学生編集委員
3年次生　柴﨑（しばさき） 真愛（まい）　中澤（なかざわ） 明日香（あすか）

Feature articles.

歴史資料室について

愛学躬行歴史資料室は、2018年5月に育心館の3階に設立されました。資料室の中は、京都薬科大学の歴史を知るコーナー、企画コーナー、同窓会・京薬会コーナー、生薬標本コーナーの、大きく4つのコーナーから構成されており、それぞれのコーナーから普段の学生生活からは得ることができない知識を学ぶことができます。

今回は愛学躬行歴史資料室室長で本学の名誉教授でもある鈴木栄樹（すずきえいじゅ）先生に解説をしていただきながら資料室を見学させていただきました。

入室するとすぐに本学の歴史コーナーがあります

鈴木名誉教授より貴重なお話を伺うことができました

入り口付近から資料室の奥まで続く本学の歴史に関するコーナーは、貴重な写真と共にカラー付きの説明で見やすく掲載されていました。企画コーナー/京薬会コーナーには、昔お薬屋さんで使われていた天秤や、百味箪笥など興味深い展示が所狭しに並んでいました。また生薬標本コーナーは、植物由来の生薬以外に、生物由来の生薬の展示があり、生薬を授業で学習し始める3年生にとっては、より関心を引くコーナーなのではないでしょうか。

現在までの本学の歩み

当時使われていた器具なども展示されています

生物由来の生薬や当時の教科書など貴重な資料が並べられています。

■歴史資料室を見学してみて

歴史資料室を訪問して、改めて本学の歴史や伝統に思いを馳せることができました。ドイツ人ルドルフ・レーマンの教え子たちによって感謝の記念に創立されたこと、設立当初はドイツ語の語学学校の別科（薬学科）であったこと、120年ほど前の一時期を除いて生徒が男子生徒のみであったことは初めて知り、とても興味深く感じました。また、当時の時間割や植物園の写真などから時代背景と共に本学が歩んできた道のりを実感することができました。

さらに、歴代の学長や学生たちの本学に寄せる思いや学びへの情熱を感じました。現在、新しい校舎の建設も進められており、本学のさらなる発展が期待されると同時に、これまで受け継がれてきた伝統を守り続けていかなくてはならないと強く感じました。みなさんにとっても、本学の歴史を知る機会になると思いますので気軽に歴史資料室を訪れてみてください。

（左から）鈴木名誉教授、柴崎、中澤

【愛学躬行歴史資料室の見学について】
＊場所：京都薬科大学本校地 育心館3階
＊見学料：無料
＊見学の際は事前にご連絡をお願いいたします（連絡先：京薬会 075-595-4621）。

●愛学躬行歴史資料室オープンデー●
月に1回程度、事前連絡なしで見学できる愛学躬行歴史資料室オープンデーを開催しています。
希望者には歴史資料室長による解説も行いますので、京薬会Webサイトより詳細をご確認ください。

京薬会Webサイト　https://www.kpu-aa.com/

2025年度6年次生　総合薬学研究　卒業論文発表会開催　Event.

教務課

2025年6月16日（月）～17日（火）の午後、創立130周年記念館で2025年度卒業論文発表会を実施しました。梅雨の晴れ間で真夏並みの猛暑の中、約340名の6年次生が3年間で取り組んできた研究の成果をポスター形式にまとめ、英語で発表しました。

薬学専門教育科目「総合薬学研究Ａ～Ｂ」は3年次後期から6年次前期まで所属する分野等（研究室）の教員指導のもと、課題研究について研究手法を習得し、研究の楽しさ・難しさを学び、得られた結果の検討や成果をまとめて6年次に卒業論文発表会で発表します。卒業論文発表会では1人の学生の発表に対して2名の教員がディスカッション・評価を行いました。学生たちは専門領域が異なる複数の教員から、より多角的な指導を受けることができ、発表後に取り組む論文執筆にも良い影響が出ることが期待されています。

また、卒業論文発表会には各分野等に所属しています学部4年次以上の学生も入場して参加しました。発表者と参加者の活発な議論にもつながり、4～5年次生の研究意欲の喚起や発表者となる心構えができたと考えられます。

今年度の発表会も多くの学生が参加し、盛会のうちに全日程を終えることができました。関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

新カリキュラム
早期ラボ体験について

Report.

教務課

薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂を受け 、2024年度入学生から新カリキュラムの適用となりました。その中でも「早期ラボ体験」の科目は1～2年次生の自由科目として、研究室での研究活動が体験できるプログラムとなっています。開講期間は1年次後期～2年次前期となっており、最先端の研究に低学年次から触れることで、研究に必要な知識・スキルの基盤や研究マインドを身につけるだけでなく、薬学を学ぶ楽しさや意義を再確認する機会となっています。

今回は早期ラボ体験の概要や参加した学生の感想などを紹介します。

■概要

開講期間：1年次後期／2年次前期

単位：0.5単位

年度	分野	タイトル	参加人数
2024年度後期	薬品分析学分野	高親和力抗体の調製と免疫測定法への活用	4
	薬品物理化学分野	蛍光顕微鏡で探る生体分子の相互作用	3
	衛生化学分野	マウスの組織サンプルを用いた生理活性脂質の組成解析	2
	病態生理学分野	細胞培養と細胞死解析法の体験（がん細胞株を用いた培養）	4
	病態生化学分野	脂肪肝を見てみよう、脳血管を見てみよう	2
	薬物治療学分野	炎症性腸疾患の病態における腸上皮バリア機能の解析	5
	薬剤学分野	生体成分に含まれる超硫黄分子の計測	3
	薬物動態学分野	薬物動態学に関連する実験と演習	2
	臨床薬学分野	消化管上皮細胞における薬物吸収に及ぼす尿毒症物質の影響	1
	臨床薬学教育研究センター	プログラミングを用いたデータ解析、モデリング＆シミュレーション研究の実施	1
	シナジーラボ／ 放射性同位元素研究センター	シナジーラボ：幹細胞の観察 ～薬学の再生医療への貢献の理解に向けて～ 放射性同位元素研究センター：薬学部で放射線を学ぶ意義を実践により理解する	7
2025年度前期	薬化学分野	触媒による有機合成反応を体験してみよう	5
	生化学分野	遺伝子発現プラスミドの制限酵素処理とDNA配列情報に基づき課題タンパク質を推定し、 免疫蛍光染色により可視化された細胞内局在からタンパク質を同定する	4
	薬剤学分野	生体成分に含まれる超硫黄分子の計測	3
	薬物動態学分野	薬物動態学に関連する実験と演習	3
	臨床薬剤疫学分野	医療リアルワールドデータ解析体験	2
	健康科学分野	生活習慣・健康指標の評価体験	2
	臨床薬学教育研究センター	プログラミングを用いたデータ解析、モデリング＆シミュレーション研究の実施	2
	シナジーラボ／ 放射性同位元素研究センター	シナジーラボ：iPS細胞を染める！見分ける！理解する！ ～再生医療の理解に向けて～ 放射性同位元素研究センター：薬学部で放射線を学ぶ意義を実践により理解する	6

■参加した学生の声

やりたいことや興味のあることが決まっていないので、研究室選びの参考になると思い、参加しました。テーマや分野の先生からのメッセージをみて、分野を選択したのですが、1年次で学んだことを振り返りながら実験ができたので勉強になりました。

1年次後期の時には薬品物理化学分野、2年次前期では健康科学分野を選択しました。内容が全く異なる分野で実験・実習を体験することができたのでよかったです。先輩の現在の研究内容や分野内の勉強会を見学させていただく機会もあったので、いい経験になりました。

■教員からのメッセージ

本学では、将来の研究活動への関心を高めることを目的に「早期ラボ体験」プログラムを実施しています。興味のある分野の研究室に早い段階から参加し、最先端の研究に触れることができる貴重な機会です。実際に参加した学生からは「研究テーマの理解が深まった」「研究室の雰囲気が分かり、研究室を選ぶ際の参考になった」との声が寄せられています。進路選択や学びのモチベーションにもつながるこのプログラムで、あなたも研究の世界を少し覗いてみませんか？興味のある方はぜひご参加ください。

早期体験学習
「プロダクト作成・意見交換会」について

Report.

教務課

2025年7月10日（木）に1年次生早期体験学習「プロダクト作成」の最終発表が行われました。本学創立130周年記念館で各グループがポスター発表及び意見交換を行いました。

このプログラムでは、これまでの早期体験学習で学んできたことなどを題材にグループに分かれて議論を行い、役割分担やテーマ設定、最終発表のポスター作成まで学生が主体となって取り組みました。

ポスター発表では自身のグループの発表だけでなく、他のグループの発表を聞いて積極的に意見交換している学生の姿がみられました。発表終了後は学生自身及び教員の投票により、ベストポスター賞を決定。選ばれたポスターは愛学館1階に掲示されました。

意見交換会の様子

ベストポスター賞（3件）

2025年度京都薬科大学給付型奨学金表彰式を執り行いました　Report.

学生課

本学では、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的に、給付型奨学金制度を設けております。今年度は、合計78名（大学院入試成績優秀者3名、新入生特待生1名、学部成績優秀者71名、研究・課外活動優秀者3名）の奨学生が選出され、奨学金が給付されました。表彰式は、7月2日（水）に執り行われ、木曽理事長から奨学生の心構えについての訓示と、表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、教育後援会会員の皆様からのご寄付により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に本誌面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

表彰状授与の様子

奨学生の皆さん

Library News

図書館

◇NII-REO“電子ジャーナルアーカイブ”のご紹介

NII-REO（NII Repository of Electronic Journals and Online Publications）＜エヌアイアイ・レオ＞とは、国立情報学研究所（NII）が提供する電子ジャーナルアーカイブで、大学等が契約する電子ジャーナルのコンテンツをローカルホスティングすることにより安定的・継続的なアクセスを可能にするものです。搭載されるコンテンツは、大学図書館コンソーシアム・各出版社及びNIIの協議・契約に基づき決定され、本学においてはSpringer, OUP（Oxford University Press）に加え、今年からCUP（Cambridge University Press）のバックファイルを利用できるようになりました。収録コレクションについては、下記の表をご参照ください。なお、その他のジャーナルについても横断検索や書誌・抄録を利用可能ですが、上記3社の全文閲覧にあたっては、学内ネットワークに接続した機器からアクセスする必要がありますので、ご留意ください。NII-REO（https://reo.nii.ac.jp/oja/）には、京都薬科大学図書館ホームページ＞“データベースで探す“からもアクセスできます。図書館では所蔵していないタイトルも多数利用できますので、ぜひ学習や研究にお役立てください。

出版社	タイトル数	収録年
Springer Online Journal Archive	約1,063誌	1832-1999
Springer Journal Archive	約70誌	1909-1999
Springer LNCS (Vol. 1501- Vol. 1760)	約259誌	1998-2003
Oxford University Press	約203誌	1996-2003
Cambridge University Press	約195誌	1827-2009

本学図書館の開館日程については本学公式Webサイトをご覧ください。

https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/

地域連携活動：
理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2025 イン山科」

Event.

学生実習支援センター　助手　徳山 友紀

7月27日（日）本学A22実習室にて、市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2025 イン山科」を開催しました。地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で14回目を迎え、山科区の小学生にとって夏の恒例行事になっています。

当日は抽選で選ばれた山科区の小学生94名が参加し、学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、市民組織の方々が地域ボランティアスタッフとして運営に携わりました。スタッフのサポートのもと、白衣に身を包んだ子どもたちが「水」をテーマとした2つの実験を通して身近な科学の不思議を体験しました。

1つ目の実験「手でつまんで持てる水！容器がいらない水を作ろう」では、昆布やワカメの食物繊維である「アルギン酸」を用いて、水ボールを作製してもらいました。アルギン酸水溶液はカルシウムと反応すると溶液の表面がゲル状に変化し、薄い膜ができることでつまんで持てるようになります。「水がつまめた！」、「ぷにぷにしてる！」と嬉しそうに見せてくれる姿や、夢中になって取り組んでいる姿が印象的でした。

うまくできるかな？

水ボールができました！

2つ目の実験「水が消えた！？水を吸う魔法の粉」は携帯用トイレから取り出した「高吸水性ポリマー」を用いて、吸水性や保水性を観察した後、着色したポリマーでカラフルな手作り芳香剤を作ってもらいました。わずかな量でその何倍もの水を吸収し膨らむ様子や、力をかけても吸収した水を離さない様子を観察し、「もこもこ膨らんできた！」、「押しても水が出てこない！」など子どもたちから感嘆の声が聞こえてきました。

集中して実験に
取り組んでいます

カラフルな芳香剤が
できました

実験終了後のアンケートでは、「参加してみて、理科がとても好きになりました。参加してみてよかったです。」、「ますます理科が好きになりとても楽しかったです。また参加したいです。」などの感想が寄せられました。今年度も参加した子どもたちに理科の楽しさを感じてもらえたことをとても嬉しく思います。また、「家ではあまりできない体験ができて、おもしろく、楽しかったです。理科がもっとおもしろくなったので、夏休みの自由研究にもやってみようと思いました。」、「とても楽しかったので、来年も参加したいし、家でも実験してみたいと思った。」など家でもやってみたいという声もあり、理科への興味喚起およびその継続のきっかけにもなったと感じています。

水の不思議に興味津々です

最後に、講座の実施にあたり、23名の地域ボランティアスタッフにご協力いただき、各実験台にて子どもたちの実験をきめ細かくサポートしていただきました。子どもたちがリラックスして実験を楽しめる雰囲気ができているのは地域ボランティアスタッフの方々のご尽力のおかげだと思っております。この場を借りて市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」の皆様に深く感謝申し上げます。

地域ボランティアスタッフのサポートは欠かせません

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の小学生の理科教育の一助となれるよう、市民組織と共にこの取り組みを継続していきたいと考えています。なお、本講座は独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施いたしました。

第110回薬剤師国家試験の結果について

ストレート（6年）で卒業し、1回（チャンスは1回と思え！）で合格しよう！
日々の努力が大切（雨だれ石を穿つ）

Report.

薬学教育研究センター長 細井 信造

6年制薬学となり14回目の第110回薬剤師国家試験が2025年（令和7年）2月22日、23日に実施されました。第106回から新薬剤師国家試験出題基準に準拠して出題されています。今回の試験は前回の第109回とほぼ同程度の難易度で、新傾向の問題も少なからず見られました。以下のことが特記事項として挙げられます。

◆全ての科目で医療や臨床に関連した問題が多くなり、特に「薬学教育モデルコアカリキュラム（令和4年改訂版）」の個別最適化医療を意識した、複数の疾患を合併した患者への対応を問う問題、個々の症候や検査値から判断して医師に処方提案を行う問題などチーム医療の一員として臨床現場で薬剤師に求められる「問題解決能力」が問われる問題が数多く出題されていました。

◆薬学実践問題・実務実践問題のほとんどが、症例・処方・検査値に関するものでしたが、理論問題でも、病態を把握するための検査値を読み取る問題が出題され、臨床現場（実務実習）での知識や科目間の知識を繋げる学修が求められる内容でした。

◆医薬品の構造式を用いた問題が、化学のみならず薬理や薬剤でも出題され、また代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）に基づいた問題も継続して出題されました。

◆新傾向の問題として、実験系問題、再生医療等製品、QALYの意味を問う問題、食品のアミノ酸組成とアミノ酸評点パターンをグラフ化した問題、大気汚染の季節変動をグラフ化した問題、帯状疱疹の予防ワクチンに関する問題が挙げられます。

◆実務実習で学んだ知識、これからの薬剤師に求められる知識からの出題など、難しい問題もありました。

◆一般医薬品（OTC）に関する問題、災害時医療、支持療法、サプリメントと医薬品との相互作用や薬局製剤などセルフメディケーションを意識した出題が見られました。

◆紅麹サプリが社会的な問題を引き起こしたことを受けて、タイムリーにコウジカビが産生する肝発がん物質（アフラトキシン）について出題され、また昨今の薬物乱用撲滅運動の一環として薬剤師が看護学校で講義をする問題や重症熱性血小板減少症症候群（SFTS）の再出題が見られました。

薬学理論問題では「生物」「衛生」の2連問、「薬理」と「病態・薬物治療」の2連問が3題など科目横断的な問題が引き続き出題され、このような連問は今後益々増えていくことが予想されます。全体的には、「日々医療情報を収集し、幅広い知識に基づいた問題解決能力を持った薬剤師を国は求めている」問題であったように感じました。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1)男女別合格率①

区分	総数	男		女	
出願者	14,825名	5,719名	(38.58%)	9,106名	(61.42%)
受験者	13,310名	4,988名	(37.48%)	8,322名	(62.52%)
合格者	9,164名	3,219名	(35.13%)	5,945名	(64.87%)
合格率	68.85%	64.53%		71.44%	

(2)男女別合格率②

区分		総数	男		女	
6年制新卒	出願者	9,191名	3,275名	(35.63%)	5,916名	(64.37%)
	受験者	8,061名	2,764名	(34.29%)	5,297名	(65.71%)
	合格者	6,849名	2,315名	(33.80%)	4,534名	(66.20%)
	合格率	84.96%	83.76%		85.60%	
6年制既卒	出願者	5,396名	2,306名	(42.74%)	3,090名	(57.26%)
	受験者	5,039名	2,108名	(41.83%)	2,931名	(58.17%)
	合格者	2,214名	860名	(38.84%)	1,354名	(61.16%)
	合格率	43.94%	40.80%		46.20%	
その他	出願者	238名	138名	(57.98%)	100名	(42.02%)
	受験者	210名	116名	(55.24%)	94名	(44.76%)
	合格者	101名	44名	(43.56%)	57名	(56.44%)
	合格率	48.10%	37.93%		60.64%	

(3)設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	705名	683名	572名	83.75%	535名	523名	474名	90.63%	72名	65名	33名	50.77%	98名	95名	65名	68.42%
公立	447名	438名	363名	82.88%	376名	374名	330名	88.24%	56名	51名	25名	49.02%	15名	13名	8名	61.54%
私立	13,672名	12,188名	8,229名	67.52%	8,280名	7,164名	6,045名	84.38%	5,268名	4,923名	2,156名	43.79%	124名	101名	28名	27.72%
その他	1名	1名	0名	0.00%	0名	0名	0名	0.00%	0名	0名	0名	0.00%	1名	1名	0名	0.00%
本学	404名	387名	328名	84.75%	338名	329名	299名	90.88%	64	57	29	50.88%	2	1	0	0.00%

さて、今回の試験では国公私立併せて74大学14,825名が出願し受験者総数13,310名中、合格者は9,164名で合格率は68.85%（第109回：68.43%）でした。6年制新卒の全国合格率は84.96%と第109回（84.36%）に比べ僅かに上昇しました。また、6年制既卒者の合格率は43.94%（第109回：42.42%）と前回と同様に新卒に比べてかなり低いものでした。本学では新卒者329名が受験し、合格者は299名（合格率90.88%）、6年制既卒者は57名受験して合格者は29名（合格率50.88%）、4年制既卒者は1名受験して合格者は0名、本学総合合格率は84.75%で、全国総合15位（第109回：14位）でした。新卒合格率は前回より上昇（+3.7ポイント）し、6年次留年率（2023年度：3.6%→2024年度：3.2%）の改善が見られました。その要因として以下のことが挙げられます。1）指定学生の在り方、選定基準および実施内容を見直したこと、特に2次指定学生（＝重点学修支援対象者）に対して、各科目（9科目）の精選問題集の配付及び問題解説を行ったこと（指定外学生にも受講機会を与えた。）、2）反復学修の一つの機会として前年度に

続いてデイリーテスト及びウィークリーテストを実施したこと、3) アドバンスト薬学本試験不合格者に対して、上記精選問題集や国家試験既出問題への取り組みを促し、適宜学修相談・支援を実施したこと、4) 学内教員および外部講師による講義の質問対応の機会を設けたこと、5) 当センター教員による質問対応および個別の学修相談などきめ細かな学修フォローアップを行ったこと、6) 前年度に続いて直前講習を7科目実施したこと、など。加えて、前回に比べ薬学理論問題および薬学実践問題の得点率はほぼ同じでしたが、必須問題の得点率が伸びた（+5.44ポイント）ことが要因として挙げられます。

次に、今春卒業した6年制14期生の評定平均と国家試験合否との関係を調べました。表2に示すように、これまでと同様、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見られます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業・合格率が低下傾向にあります。このことは、1年次からの学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。単位を取得するためだけの勉強ではなく、真摯に学問に向き合い、日ごろから将来の医療人としての自覚や国家試験等を見据えた高い学修意識を持つことが肝要と考えます。

表2. 評定平均と国家試験の合否との関係

評定平均 ※1	学生数	卒業者	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	1	1	1	0	100.0%
90点以上95点未満	18	18	18	0	100.0%
85点以上90点未満	48	48	48	0	100.0%
80点以上85点未満※2	80	79	79	0	98.8%
75点以上80点未満	95	95	86	9	90.5%
70点以上75点未満	72	68	55	13	76.4%
65点以上70点未満	26	21	12	9	46.2%
65点未満	—	—	0	0	—

※1 専門必修講義科目の平均点
※2 後期休学者1名を除く

本学6年制14期生に対しても、これまでと同様に今後の教育および国家試験対策に利活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請しました。これまでは、本学独自のシステムを利用してきましたが、今回から薬学ゼミナールの自己採点システムを利用することとしました。その結果、入力率が改善し329名の受験者中285名が入力してくれました（入力率86.6%、前回：75.1%）。表3に示すように、本学総合正答率は72.0%（厚労省通知）と前回(70.8%)に比べて1.2ポイント上昇しました。難易度は前回とほぼ同程度であると評価されていることから、本学の受験者は善戦したと言えます。また、新卒について問題区分ごとの正答率を全国平均と比較すると、何れも上回っていました（必須問題：+3.0ポイント；薬学理論問題：+2.6ポイント；薬学実践問題：+0.8ポイント；総合：+1.9ポイント）。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必須問題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	7	4	9	7	5	4	3	54
平均点	13.1	9.1	14.0	12.8	11.3	9.0	8.7	77.9
最高点	15	10	15	15	15	10	10	90
平均正答率	87.3%	91.0%	93.3%	85.3%	75.3%	90.0%	87.0%	86.6%
学内全体（新卒）								85.9%
全国（新卒）								82.9%

問題区分	薬学理論問題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理		合計
問題数	30	20	15	15	15	10		105
最低点	8	3	3	3	4	3		42
平均点	15.5	10.8	11.6	11.6	10.1	8.0		67.7
最高点	27	19	15	15	14	10		95
平均正答率	51.7%	54.0%	77.3%	77.3%	67.3%	80.0%		64.5%
学内全体（新卒）								63.8%
全国（新卒）								61.2%

問題区分	薬学実践問題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	345
最低点	3	4	3	2	2	1	36	68	172
平均点	9.9	7.4	8.2	6.7	7.4	6.1	59.5	105.2	250.8
最高点	14	10	10	10	10	10	76	132	317
平均正答率	66.0%	74.0%	82.0%	67.0%	74.0%	61.0%	70.0%	70.1%	72.7%
学内全体（新卒）								69.4%	72.0%
全国（新卒）								68.6%	70.1%

注：青色およびピンク色のデータは厚労省通知のデータ

第110回薬剤師国家試験における正答率の高い問題および低い問題の得点率と総得点率の相関を示します。正答率60%以上の問題（256題）（前回は246題）と総得点率には強い相関が見られました（図1）。一方、正答率60%未満の問題（89題）と総得点率との相関は、正答率60%以上の問題との相関に比べると低いものでした（図2）。このことから、国家試験の合格基準をクリアするには、受験者の多くが正解する問題をしっかりと得点に結びつけることが大事なことが分かります。そのためには、6年次に実施されるスタートアップ模擬試験および模擬試験（Ⅰ～Ⅲ）の結果を見て、全体の正答率が高い問題で自分が間違った問題については、必ず見直し定着させるよう努めることが重要です。

図1

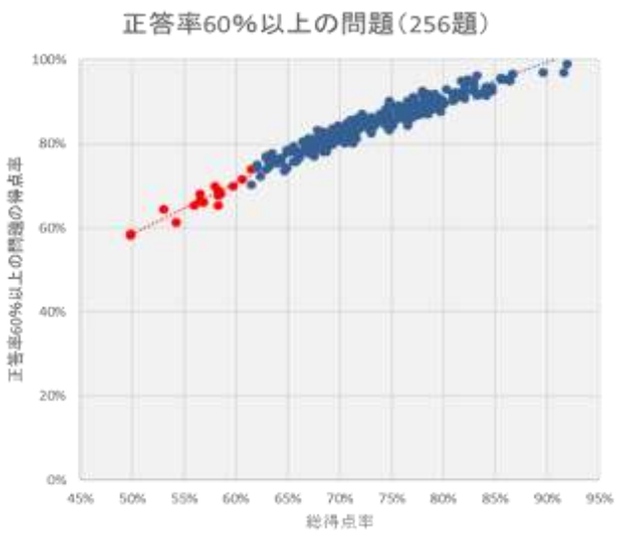
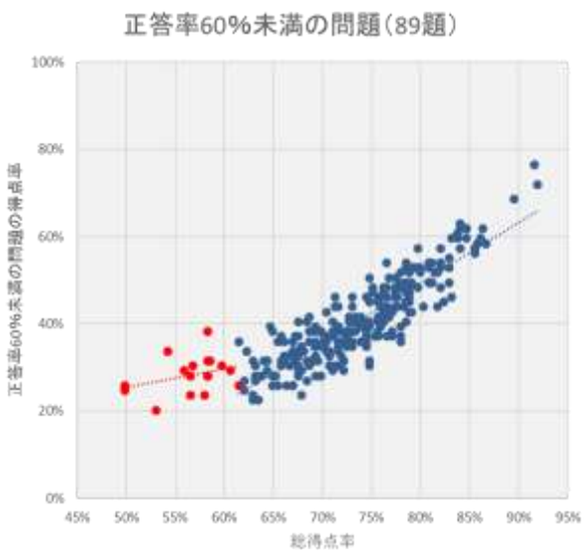


図2



青：国試合格者；赤：国試不合格者

＜第111回薬剤師国家試験に向けて＞

薬剤師国家試験に合格するには、**低学年次**からの学修の積み重ねが重要であり、6年次になって焦って慌てて勉強しても間に合わない可能性が高いです。学部の講義、演習、実習（実務実習も含む）および研究の一つ一つに真摯に向き合って下さい。1年次から国家試験対策をしなさい！と言っているわけではありませんが、初年次から将来の医療人を目指して高い学修意識を持つ必要があります。1～3年次生の皆さんは、日々の学修に取り組み、学問を楽しんでください。理解を伴わない丸暗記学修はお勧めしません。4年次生以上の皆さんは、第110回薬剤師国家試験問題（厚労省のHPに掲載）を確認し、どのような内容が問われているかを知ることで、以後の講義、実務実習等のモチベーション向上に繋がるはずです。物理・化学・生物は他の科目の基礎であり、定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。特に、薬理は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が大きいことが明らかとなっている科目の一つです。国家試験では内容が偏ることなく科目間の壁を越えて出題されるので、重要項目を中心に理解しながら、また他の科目と関連付けて勉強することも大切です。今、成績がよくない、あるいは先行きが不安であると感じている学生は、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、早急に実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。分からないことを放置するのではなく、ちょっとしたことにも疑問を持ち、直ぐに調べ、解決するように努めることも大切ですし、友達と一緒に勉強し、教え合うことも有効な学修方法の一つです。各科目の内容に関する質問については『オフィスアワー』を、学修に関する悩みや相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。薬剤師国家試験に合格し、国家資格を取得することは、あくまでも通過点にすぎません。皆さんそれぞれの目標（夢）を達成（叶える）するためには平素の努力の積み重ねと早めの行動が大切です。

2026年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考結果

Report.

入試課

2026年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考を8月22日（金）に実施し、8月28日（木）に合格発表を行いました。入学選考の結果は次の通りです。

○2026年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	7名
受験者数	7名
合格者数	6名

病態薬科学系病態生化学分野　准教授　石原（いしはら）　慶一（けいいち）

『セレンディピティと近代医学
独創、偶然、発見の100年』
モートン・マイヤーズ、小林　力（訳）

中央公論新社（2010年）

学生の皆さんはセレンディピティ（serendipity）という言葉は耳にしたことがあるでしょうか？薬学研究に携わる者は、恐らく皆一度は耳にしたことのある言葉だと思います。本書では、セレンディピティを「本来探しているものとは別の、価値のあるものを見つけ出すこと、またその能力」と定義しています。薬学の歴史において、“セレンディピティ”は非常に大きな役割を担ってきたことが本書を読めばすぐに理解できると思います。実は、重大な発見の多くは意図せざる偶然の結果として生まれています。セレンディピティによる発見として、アレキサンダー・フレミングのペニシリンの発見は非常に有名な話ですが、本書ではペニシリンの発見も含め計39ものエピソードを紹介しています。

本書のエピソードを読むと感じると思いますが、薬学を含む医学の大きな発見を成し遂げた研究者は、ご多分に漏れず好奇心旺盛で、何の根拠もないがやってみよう！というチャレンジ精神が旺盛です。もちろん言うに及ばす、幅広い知識と経験は必要不可欠ですが、予想外の結果に対して、冷静に分析する能力も有していることに気付くでしょう。私たち薬学研究に携わる者や携わる予定の低学年の学生諸氏は、発見につながる種を逃さないよう、日々の研究活動に真摯に向き合い、観察力を鍛えることがセレンディピティを高める唯一の方法であることに気付くはずです。

また、既に本学において卒業研究などの薬学研究に携わっている学生諸氏は、本書で紹介されている医学研究における重要な発見が、現在の医学・薬学研究において主流である仮説検証型研究　（事前に立てた仮説が正しいかどうかを検証する研究）において生まれたわけではないことに気付くかもしれません。本書の各エピソードに登場する研究者の多くは、多くは研究者自身の好奇心に従って（論理的でない場合も多々ある）研究を進め、偶然答えにぶつかり、創造的な思考を通じて生まれたもの、いわゆる仮説生成型研究によって重要な発見が成し遂げています。昨今の研究の主流は、仮説検証型研究ですが、本書の著者はその要因として最も大きなものは現在の研究費分配システムにあると述べています。本書で紹介された発見は、個人の興味によって自由な研究が行われており、現在のような公的な研究費配分機関が存在しなかったことが逆に自由な研究の推進を許諾することとなりセレンディピティを後押ししたのではないかと推察されています。現在の研究費分配システムにおいて、研究計画の採否を決定するためには仮説に基づいた研究に研究費の分配が偏りがちになることは致し方ないことですが、本書を読んで、個人的には大きな発見のために、仮説生成型研究の要素を組み込んだ研究の重要性を感じています。本書は15年前に発刊された古い本ですが、学生諸氏の薬学研究に対する意欲を向上させる一助となればと思い、今回私の一冊として紹介させて頂きました。

事務局　研究・産学連携推進室　加藤（かとう）　浩（ひろし）

『お探し物は図書室まで』
青山美智子

ポプラ社（2020年）

皆さん、日ごろ様々な悩みを抱えていませんか。新しいことへ挑戦することで自己再発見があるかもしれません。本書では5人の登場人物がそれぞれの悩みを抱えながら町の小さな図書室を訪れ、司書との出会いを通じて成長していく様子が描かれています。本書の中ではセレンディピティ（私の好きな言葉のひとつです）という言葉は出てきませんが、司書は一風変わった本も推薦します。この推薦本が、彼らにとって思いがけない気づきとなり、自分のやりたいことを見つけるきっかけとなります。また、司書が推薦本リストと一緒に手渡す羊毛フェルトの付録は、物語を象徴するアイテムとして、登場人物たちの心の支えとなります。その羊毛フェルトとそれぞれの進む道との関連性を考えながら読むのも面白いと思います。本書の登場人物を簡単に紹介します。

★朋香（21歳）：田舎から上京し婦人服販売員をしていますが、仕事にやりがいを感じられず悶々と生活しています。図書室で絵本『ぐりとぐら』を勧められ、それをきっかけにカステラ作りに挑戦し成長していきます。
★諒（35歳）：家具メーカーの経理部に勤めていますが、自分のお店を持つ夢を抱えています。恋人と図書室を訪れた際に司書に夢を打ち明け、紹介された本をきっかけに自分の夢に向かって一歩踏み出す勇気を得ます。
★夏美（40歳）：元雑誌編集者で育児と仕事の両立に悩んでいます。復帰後の職場異動に納得できず、図書室で紹介された本との出会いを通じて自分のキャリアについて考えていきます。
★浩弥（30歳）：就職活動に失敗しニートとして過ごしています。図書室での出会いをきっかけに自分の好きなことに向き合う勇気を得ます。自分の価値観や目標を再確認し行動を起こしていきます。
★正雄（65歳）：定年退職後の生活に迷いを感じています。紹介された本との出会いを通じて、人生の新たな意味を見出します。妻にも支えられ、人生の後半における自己を再発見していきます。

セレンディピティの力を感じながら、読んでみてはいかがでしょうか。

生涯教育センターからのお知らせ

生涯教育センター

●「現在申込受付中」および「今後申込受付を開始予定」の研修会をご紹介します。皆様のご参加をお待ちしています。

◆2025年度ｅラーニング講座
好評だった2025年度卒後教育講座の対面講義も受講できます。

配信期間中
いつでも申込できる！

＊配信期間：2026年2月28日(土)まで
＊参加費：①全視聴コース 30,500円、②当年度コース 22,500円、③卒後コース 20,500円、
④漢方コース 24,500円
＊申込受付期間：2026年2月24日(火)まで　＊認定単位：G24　1単位／コンテンツ
＊過去にｅラーニング講座や卒後教育講座・漢方講座を受講して既に認定単位を取得しているコンテンツは、視聴は可能ですが単位の認定はありません。

	全視聴	当年度	卒後	漢方	新規　2025配信コンテンツ	
1	○	○	○		2025年度卒後教育講座	生成AI活用術～医師による薬剤師のためのChatGPT入門を中心に～
2	○	○	○			授乳婦への投薬：どの情報を使い、どこまで伝えますか
3	○	○	○			RMPを基礎から学ぶ～様々な医薬品情報をどう扱っていくか～
4	○	○	○			セルフメディケーションの現状と課題、薬剤師への提言
5	○	○	○			在宅医療の本質と正しい薬剤師の関わり方
6	○	○	○			地域で取り組む医療安全～患者安全のために取り組むべき課題～
7	○	○	○			患者さんに伝えたい”腎臓を守ることは、命を守ること”
8	○	○	○			ポリファーマシーを解消する病診薬連携
9	○	○	○			災害時医療と感染対策～地域を守る薬剤師に求められること～
10	○	○	○			漢方薬の服薬指導とアフターフォローのポイント～在宅と家庭薬膳教室の実践から～
11	○	○		○	2025年度漢方コンテンツ	【臨床】漢方がん支持療法
12	○	○		○		【基礎】気の生理と病態
13	○	○		○		【基礎】血・津液の生理と病態
14	○	○		○		【薬物等】生薬の選品と鑑別(6)
15	○	○		○		【臨床】情報収集から治療へ、経絡の知識からも処方を考える(2)
16	○	○		○		【基礎】四診(望・聞・切診)
17	○	○		○		【基礎】セルフメディケーション領域の漢方ー更年期のトラブルー
18	○	○		○		【基礎】四診(問診)
19	○	○		○		【薬物等】和漢薬研究の醍醐味
20	○	○		○		【臨床】産婦人科領域の漢方治療
21	○	○		○		【基礎】セルフメディケーション領域の漢方ーくしゃみ、鼻水ー
22	○	○		○		【臨床】消化器疾患領域の漢方治療(2)(仮)
	全視聴	当年度	卒後	漢方	2024配信コンテンツ	
23	○		○		2024年度卒後教育講座	感染症治療の基本的な考え方
24	○		○			女性の健康と薬剤師のかかわり
25	○		○			がん治療の変遷から胃がん外科医が経験してきたこと～
26	○		○			がん薬物療法を受ける患者の自分らしく過ごすをどう支えるか～薬剤師と看護師の協働～
27	○		○			がん薬物療法における薬剤師の役割～過去、現在、そしてこれから～
28	○		○			ミトコンドリア/ATPシグナルと2型糖尿病
29	○		○			ミトコンドリアと糖尿病治療戦略
30	○		○			CKD診療とくすり
31	○		○			薬剤師が取り組む！薬剤性腎症を予防する取り組み
32	○		○			小児医療と薬剤師のかかわり
33	○			○	2024年度漢方講座	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―月経痛―
34	○			○		【薬物等】漢方製剤の品質評価(仮題)
35	○			○		【臨床】ペインクリニック領域の漢方治療
36	○			○		【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―動悸―
37	○			○		【薬物等】知っておきたい漢方配合生薬 (その4)
38	○			○		【臨床】消化器領域の漢方治療
39	○			○		【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―疲労倦怠感―
40	○			○		【薬物等】生薬の選品と鑑別(5)
41	○			○		【臨床】不妊治療-妊娠前から行う漢方治療について
42	○			○		【基礎】セルフメディケーション領域の漢方―肥満―
43	○			○		【薬物等】薬局薬剤師ができる研究活動
44	○			○		【臨床】皮膚科診療における漢方治療～痤瘡を中心に～

◆2025年度実務支援セミナー
～在宅医療における注射薬の設備導入とポイント～

【20名限定！】
お申込みはお早目に！

従来からの丁寧な実技実習に加え、在宅医療に焦点を当て、無菌設備導入の基本知識やPCAポンプの使用法などの実践的な講義を盛り込みました。参加者間で日頃の疑問等も共有できますので、地域連携薬局を目指す薬局・薬剤師の方々は、この機会をぜひご活用ください。

＊開催日時：2026年3月1日（日）　10:00～16:00
＊開催場所：京都薬科大学　臨床薬学教育研究センター
＊定員：20名（薬剤師限定）
＊参加費：10,500円（受講料10,000円、事務手数料500円）
＊申込受付期間：2025年12月17日（水）～2026年2月16日（月）
＊認定単位：G24　4.5単位
（事前ｅラーニング（90分）1単位含む）

プログラム		
事前配信（ｅラーニング）		・注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識　・外来化学療法の実際
10:00～11:15	導入講義	・無菌設備導入に関する制度改正と環境の変化 ・2024年調剤報酬改定での無菌製剤に対する報酬の変化 ・PCAポンプを使ったオピオイドの無菌調製
11:20～12:20	ランチョンミーティング	・情報共有、意見交換
12:30～15:00	実技実習	・衛生的手洗い（ラビング法、スクラブ法）　・ガウン、手袋、帽子、マスクの装着 ・注射薬混合調製（アンプル、バイアルの取扱い、薬液採取、陰圧操作） ・TPNバッグの取り扱い　・ガウン脱衣
15:10～16:00	情報共有	・事前動画や実技実習に対する質疑応答　・自施設における注射調剤の問題点や課題の共有

●2025年度公開講座は、薬用植物園開設100周年を記念し、5年ぶりの御陵園見学を含め、盛り沢山の内容で実施します。軽食やお土産もご用意しています。お気軽にご参加ください。

◆京都薬科大学薬用植物園開設100周年記念　公開講座
次世代のがんプロフェッショナル養成プランとの共催で開催します。

＊開催日時：2025年10月26日（日）　11:00～16:00　【10:30 御陵園にて受付開始】
＊開催場所：京都薬科大学 御陵園および本校地愛学館A31講義室
＊参加費：無料　【軽食、匂い袋のお土産あり】
＊事前申込：必要　【申込期間：9月10日（水）～10月22日（水）】
＊内容：
一部[11:00～12:00]：薬用植物園御陵園見学 ⇒本校地へ移動・昼休憩
二部[13:00～14:00]：植物園関連講演会
「今こそ知りたい薬用植物のチカラ 《薬草（漢方）で治す。諦めない。
～朝起きられない・気象病！それ、漢方で治せるフクロウ型体質（夜型体質）かも？～》」
広島国際大学薬学部 生薬漢方診療学部門 教授 中島正光先生
三部[14:00～16:00]：がんプロ共催講演会
①「あなたの人生の最終章、どう描きますか？
～後悔しないための「人生会議（ACP）」と、心に寄り添う「グリーフケア」について」
熊本県山鹿地区薬剤師会 理事 きらきら薬局 大森眞樹先生
②「肺がん薬物療法の進歩」　京都府立医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 教授 髙山浩一先生

■申込方法
生涯教育センターホームページよりお申込みください。（https://skc.kyoto-phu.ac.jp/）

■問合せ先
京都薬科大学　事務局 実務・生涯教育課
＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp
＊TEL：075-595-4677
＊FAX：075-595-4792

eラーニング講座
申し込みページ

実務支援セミナー
申し込みページ

公開講座
申し込みページ

十人十色

KPU$_{NEWS}$では、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

届け！心のハーモニー

4年次生　吉井（よしい）　明優（あや）

合唱は、身体が楽器です。声があれば、仲間とつながれる―そんな芸術だと私は思います。自信なんてまったくなかった中学生の頃、「入った瞬間レギュラーだよ」なんていう、ちょっとキザな先生の一言と、キラキラと歌い輝く先輩たちの姿に心を奪われて、私は合唱を始めました。

あれから10年。私は今も「合唱団ここはも」の一員として、歌い続けています。この合唱団には、中学校の合唱部を卒業した人たちが集まっていて、高校生もいれば大学生、社会人もいます。年齢も生活もバラバラだけど、ここは“何年ぶり！”の仲間と当たり前のように会える、そんな不思議で心地よい場所です。そして指揮と伴奏は、あの頃と変わらない恩師。私は21歳ですが、先生との出会いは間違いなく一生の宝物になると感じています。

みんなで心を一つに

私たちは毎年、自主コンサートを開催しています。家族や地域の方、合唱団には参加できなくてもかつて一緒に歌っていた仲間たち、まったく違う場所で合唱をされている方々などたくさんのお客さまとお話する機会があります。演奏中に涙を流してくださる方もいて、心が揺れた瞬間に触れるたび、音楽の力のすごさを感じます。

また昨年から合唱コンクールにも挑戦し始めました。普段のステージとは違う緊張感、舞台裏でのみんなの表情、前の団体の演奏を聴きながら肩をもみ合ったりする時間……。もちろん緊張しています。でも、ひとりじゃなくて仲間がいる。これが、私が合唱を好きな理由のひとつです。大好きな先生の指揮と伴奏で歌える喜びを噛み締めながら、ステージに上がります。あの感情はうまく言葉にできませんが、私にとっていちばん“光っている”時間なんじゃないかと思っています。

コンクール会場

コロナ禍では、審査結果をバラバラで受け取る形式に変わってしまいましたが、昨年は久しぶりに、仲間と一緒に味わうドキドキワクワクな結果発表の時間が戻ってきました。目標の金賞全国大会出場には届きませんでしたが、銅賞をいただき今年の10月も、再び挑戦します！！

私にとって合唱は、心の通い合いそのものです。呼吸を感じ、声を支え合ってできあがる音楽には、優しさや温もりがあります。いつまで経っても当たり前にはならず、忘れたくない感覚です。そして楽曲の詩を楽しむことも、合唱の醍醐味だと思っています。合唱曲にされる詩は、人だけでなく世の中のすべてのものについて描かれることが多いです。そんな幻想的な世界を想像し、解釈することで多くのことを学びました。

テスト期間の休憩中には録音を聞いています。科学を日々学んでいるからこそ、感性に触れられるこの時間が心温まる瞬間だと改めて実感できました。目には見えず、数字や言葉で表せるようなものではないけれど、確かに人の心を動かす力がある。合唱の輪がもっと広がり、聞いてくださる方の小さな喜びに繋がることを願います。

“届け！心のハーモニー”　みなさんの心のよりどころは、何ですか？

合唱団ここはも（筆者：前列左から2番目）

学生相談室だより

Column

学生課

■自分と人を比べてしまうクセについて

悩みというのは尽きないもので、特に青年期にあたる学生時代は、自分の容姿や性格のこと、人間関係のこと、学業のこと、将来のこと、悩みの種となることがたくさん出てきてしまいます。ただ、悩みを抱えるのはごく自然なことであり、もやもやとした辛い気持ちを抱えながら、一つずつ乗り越えていくことを通してこころが成長していくのでしょう。

中でも、学生時期によくみられる悩みの一つとして、「人との比較で苦しくなってしまう」「周囲と比べて自分が劣っている気がして落ち込む」といった、人と自分を比べる視点から自分自身を評価してしまう思考回路で自分を追い詰めてしまい、気持ちが落ち込んでしまったり、やる気がなくなったりということがあります。

また、自分より優れていると感じる人を見て落ち込んだりというだけではなく、自分より下だと感じる人の存在で少し安心するということもあります。しかし、それはつかの間の安心に過ぎませんし、場合によっては、人を下に見てしまう自分が嫌になって余計に落ち込んでしまうということもあるでしょう。そうなると負のスパイラルに入ってしまいます。

そもそも私たちは、学業面に関しては、「テスト、通知表、受験」等によって、また、習い事や部活動であれば、「コンクールや大会」等によって、幼いころから周囲との比較や競争が生じてしまう環境に身をおいて毎日を過ごしてきています。それと同時に、数字が高い方が、また、合格切符を得られた方が上であるという価値観も染みついてしまっています。そういった視点を幼いころから叩き込まれている訳なので、人と比較して落ち込んでしまう癖がついていても致し方ありません。しかし、それによって自分が苦しくなってしまい、日常生活に支障をきたすほどになってしまっているなら、どうにか対処していく必要があるでしょう。

そのためには、自分自身のこころの中を掘り下げながら、自分が下と感じることで何が不安なのか、また、どういう自分であることを望んでいるのか、その理想の自分は果たしてほんとに自分自身が望んでいる姿なのか等、自分の中で形作られてきた信念や価値観と向き合う作業が必要となってきます。周囲の大人からあるいは社会的なプレッシャーから影響を受けてきた価値観について、客観的に見つめなおす必要があるでしょう。

そのこころの作業を、誰かと話をしながら考えてみたいということがあれば、ぜひ学生相談室にご相談ください。相談したからといってすぐに楽になれるわけではないのですが、物事を見る時の視野が少し広がるかもしれません。ご利用お待ちしております。

（臨床心理士　上野みな子）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

●相談申込み・問い合わせ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

・開室（受付）時間 ： 月～金 8:45～17:15
・学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp
・電話：（075）595-4672（建部）/（075）595-4686（上野）
申込フォーム：https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html

NEWS 人 事 異 動

採用

創薬科学系 薬化学分野　助教　喜屋武龍二
（任期：2025.7.1～2030.6.30）

昇任

病態薬科学系 臨床腫瘍学分野　教授　中田　晋
（任期：2025.7.1～2035.6.30）

再任用

医療薬科学系臨床薬学分野　講師　辻本　雅之
病態薬科学系病態生化学分野　助教　河下　映里
病態薬科学系臨床腫瘍学分野　助教　飯居　宏美
（以上 任期：2025.7.1～2030.6.30）

昇格

事務局施設課　主査　新石　倫大
（前 事務局施設課 主事）

事務局教務課　主査　坂口由美子
（前 事務局教務課 主事）

事務局教務課　主事　長谷川育実
（前 事務局教務課 事務員）
（以上 2025.7.1付）

退職

事務局 入試課　主事　佐藤　和巳
（2025.6.15付）

受 賞・掲 載 Report.

■薬剤学分野 前田仁志准教授が日本薬剤学会第40年会において、日本薬剤学会奨励賞を受賞しました

2025年5月24日（土）に開催された日本薬剤学会第40年会において、薬剤学分野 前田 仁志准教授が日本薬剤学会奨励賞を受賞しました。

受 賞：薬剤学分野　准教授　前田 仁志
演 題：リンパ節マクロファージを標的とする新規薬物送達システムの構築と
　　がん免疫療法への応用
演 者：前田 仁志

■第8回フレッシャーズ・カンファランスにおいて本学学生2名が優秀演題発表賞を受賞しました

2025年6月21日（土）・22日（日）に本学で開催された日本医療薬学会の第8回フレッシャーズ・カンファランスにおいて、本学学生2名が優秀演題発表賞を受賞しました。

受賞：臨床薬学分野　6年次生　藤井 藍
演題：ヒト消化管上皮モデルCaco-2細胞におけるロキサデュスタットの細胞膜輸送に及ぼすインドキシル硫酸の影響
演者：藤井 藍、辻本 雅之、岩田 怜子、和泉 奏咲、平塩 智基、福永 光樹、西口 工司

受賞：臨床薬剤疫学分野　6年次生　佐々貴 夕佳
演題：2020年度におけるNDBオープンデータを用いた日本の制吐薬と高度催吐性リスクの抗がん剤の使用状況およびがんの認定・専門薬剤師数との関係
演者：佐々貴 夕佳、豕瀬 諒、村木 優一

■「Lehmannプログラム」について薬事日報に掲載されました

本学の履修証明プログラム「Lehmannプログラム」について、実施内容と生涯教育センター長 村木優一教授のコメントが薬事日報（2025年7月23日）に掲載されました。

薬事日報

薬学のエキスパートを養成へ

京都薬科大学

Lehmannプログラム

学びを、ともに。

アカデミックスキル基礎講座

■理科実験講座「身近な夏の不思議体験2025イン山科」について京都新聞に掲載されました

本学にて山科区の小学4～6年生を対象に開催した理科実験講座「身近な夏の不思議体験2025イン山科」について、京都新聞（2025年7月28日）に掲載されました。

令和7年（2025年）7月28日（月曜日） 本版 朝刊 京都市 朝刊 019ページ

「つまめる水」不思議

大学ラボで科学者気分

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co., Ltd.

©京都新聞社 無断複製・転載を禁じます

掲載記事については
本学公式Webサイトよりご覧ください。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/

京都薬科大学奨学寄附金芳名録 Report.

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊ 敬称略、芳名のみ掲載しております。

＊ 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させて頂きます。

2025年6月～2025年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等（五十音順）>

東　　富雄　　中村友規子

中川　　孝　　野儀優比子

< 企業・団体・一般 >

キノンビクス株式会社　　クオール株式会社

< 法人役員・評議員・職員（五十音順）>

中谷　庄吾（課長）

(2025年8月31日現在)

■ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。
引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/contribution/

KPUNEWS No.223　2025年10月発行／編集：KPUNEWS編集委員会
発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。